桂花餘香

初編 下

へ4
4555
2

門 へ4
號 4555
卷 2

昭和十一年
一月二十五日
購求

戀歌

[illegible]

初恋　　元吉

[illegible]

題しらず　　直好

[illegible]

夕恋　　よしみち

[illegible]

恋　　西元

[illegible]

題しらず　蓬莱

あかつきはあらぬ夢をかたらひて命の限りなりけり

祈恋　景樹

世の中は岩間の水のわりなくてたえぬ思ひに絶えんとぞ思ふ

待恋　よるべしら

来ぬ人をうらぬ恋の慰めに松ふく風をかりてまちなん

連歌待恋　大成

新おくのよもぎの露のしをれてまちとなるらん

題しらず　松根

魂あくがれてかりそめにうつる魂の思ひ乱れぬる思ひ

偶恋　重能

偽のこゝろ知りそめてのちの世までおもかはらぬ

逢不偽恋　一也

今宵限りなぞ世をうらぬ身なりけり

稀恋　直好

久方の空ふる雨の川いつ都中に流れそめぬる

遠恋　よるべしら

ゆくやうらんおもてもなくの花を面影せん

切恋　　観山

[illegible]　　宗弓

増恋

秋山紅葉思ひそめける人恋しさの いろに出でぬ

変恋　　勝称

ちぢの色に染まる秋山すゑつ神なびに 降りこそ[illegible]

浮舟恋　　元定

うつり香の[illegible]より白[illegible]神なびに 恋神なる[illegible]

被恋恋　　重見

[illegible]あまりに人の[illegible]けるなる

題しらず　　重栄

秋[illegible]の庭[illegible]の[illegible]降[illegible]

古恋　　よしこ

[illegible]

題しらず　　浮の上

[illegible]

久恋　　よ美人

[illegible]

春恋　長雨

晴れぬ日の数ふる雨の軒端にぞ思ひ乱るる人の心

秋恋　美人しら

きりの葉に秋の来ぬるを夜の風にうつる人の心の色

冬恋　夏香

思ふ事を語りて夜の風四時雨のまやのしれて恋ふる日

老恋　重鈍

もゝ山ひの雪のもとうれぬる思ひ人ぞ知ねとも入れて

恋合　婆雄

ひとすぢに逢みの中にかくるゝ人こひしなる雲の風の里

題しらず　雪道

位よりの梅ぬるまを風のなれて袖にうつるみて袖

恨世恋　よ美人しら

是戒の原ぬの恋入てよりうきよた位の人を恋しよ

恨ぬ悔恋　重鈍

恨らしと今ぬうてのて葛葉面のせたを袖のけるまな

夢中恋　可宮

ひとひ記の死ぬ(そ)うねのゆの中にる人をみ恋を

夢中幷恋　　康民

題しらず　　直好

うねめの袖のうへ申ばかりなる袖にはかなき夢をかたらふ

恋無常恋　　恵岳

時人の袖のうへにおきいてゝ露の袖の何なるけん

依恋祈神　　刀美子

いまよりは都を神のまもりとぞ人のりまゐらん

題しらず　　直雄

君をこそ思ふ人つゝれ思ふ人思ふ人の人の常にぞ思ふ

都にひとをたのやう人のあるもの人の人ぞ

寄松恋　　元元

君恨とこゝろの底なる杉あり人の宣ばこまらん

寄衣恋　　よ美人しらず

あさ海のあさひの日の日の日の衣色のなりぬ

寄木恋　　紀言

道なきいひつゝ山のあや杉の坂の知るべき音信もせず

寄駒恋　　長義

[illegible]

直好

寄琴恋　　久敬

[illegible]

寄笛恋　　秀雄

[illegible]

寄夢恋　　千城

[illegible]

寄網代恋　　宗恒

[illegible]

寄網恋　　道記

[illegible]

寄巻恋　　勝称

[illegible]

寄橋恋　　宗松

[illegible]

可宣

就こひさかたのおりて津の国のなにはのよしありけるに

寄難忘　　正寿

陸奥のしのふもちすり乱てはわすれぬ難もこゝろならなく

久敬

いたましき萩にもしつくのみあらしその枝に宿も萱んとすなる

題しらす　　よみ人しらす

君と我おもひて浪にぬれ濡さへてかはらぬさまの縁

風渡る枝の花ゆくに飛蝶のさそふ軒とあきこひもつゝみぬるな

みちのくのなにはの人と云へともあすはにほへる市は名し

老人のこゝろの道にてなかなかに若ひとのかた才とよろしき

松の葉に常にかくれてはこたへの色すや古今の心行をよ

並ふたもとの風の絶えはたえまなき今をなかなかを行かてと見

時のまにまに宗をなりとりてれいは躍譜よりなかなかに悦

あまつ日にも今年さるのあつかりて給ふなれはなき

世の道の成とめて思ひまさしく帰りにひとの人の涙つれ

天地のあとは地にいつくしき野への心をもおもひつゝなにはの世の色

ねもころの物のゆめはかれなん人ならぬ現に猶おもふ心なし

ひさかたのあまつ空を悔るゝものにも恋に告なん思ひすまつ色

吹風のやうなる事あるとて世中はれ人も音にたてるけるが郎
あるあるはと遠国のあるはあるさ屋を恨る所行うれうさ
和多れ風ふるうもて月あるのもの吳ちるぬ爺意
氣ちひ小原さらら海ちたをはのちちひたはけるものと
大ちれ宮のうれ所新のものうてうひ立ぬもな
ちうはなものふあるぬと意をぬつんれかちみなり仏絶
なるれかちれふるを世なりきを紅てあをはさます
遠琴のまれをまふ陽ちれちてを孫くをあとうれ人
ゆめをを意をれものたうはけり宗とめる歌のを風まの

ちれをのうやうる歌の猫ぬをさ月とひ人う意ま

雜歌

寄船祝　　よ美人ら氏

山城の假寄の船つくりおきてゆくすゑ君をまつ滝

題しらず　　貞負

君の代のよろづよをかけてふる滝に杉のある世の亀

難波人の頃より　　意城

君を待んよもぎの花のかげにほひの多つもるる

平野の社造営の時　　よ美人ら氏

山川の石を運ひて今つくる平野氏橋を百代の先見

加古松　　素樹

この春は操さかりかなる雪の降る人き松、

題しらず　　直好

鶯のなくこゑ世をはなれ濁る水の音ばかりさやけき

暁　　二の宮

あらまほしき鏡の音ばかり猶ひとりぬるよ元二人ぬる秋元

山　　節

ちかれわが世と雲のまをみるこゝろ毎年秋山の邦

山居　　紀成

うれ度高ひや屋根に鳴く山ちかりけ古みの寄見

知紀

世中元ゆうき山のおく邦

暮山雲　　常清

山元入れのうち元ひ元夕日雲はうまいの所ひ雲

夏香

題しらず

東てたゝよひの雲ぬ元めうき家柏の邦

暮山松　　景樹

日元入ぬゝはみゆる山陽の松ゆ元ゆ元ゆ元

如義の臨時祭再興しまつる歌

うつこそ矢をもつ毎　可信

宮幸の人とれるね家大思神の彩やおて身人

おもし臨時祭りを殿つつ　久敬

ちたりてくく

九重に久へのちとりをすまてきみ敬方の日宮年

さとを霞のうちたるかな　幸文

宮のうち紀ちをまれ此此の人のこころや家なるらん

賴朝卿のうた

こつ沒のひをふ沒の寄りて夏あらて沒るみを時のきぬれて

時頃の興帝殿の的はて　長嶺

ちをまれ一殿をるをるりはをなつ月まの海るを紀上ふ

大こ猪はの猪をるかて

たたりはのこをのこをのこをせ宮一筋ふのこは寄るるるはをん

月の日をきを沒りり　吉紀

時るは此をるの月をて日をこをこ初音なるらん

ふをりをこれをめれり

宮方紀んをこの村をの沒の宮を沒をこ方を

人のもとへ野花につけて遣しける　審一

年を経てさかぬ花の中垣もうつしてさかよ我が心の、

西行忌に寄花述懐といふ

ことを　京恒

惜しむらむ我世のはかなさを我何やまかせてよりけん、

楠廷尉五百年忌に

寄郭公懐旧を

死すとてもたえぬ誠の声は今もまたほととぎすかな、

猛虎一声山月高　知紀

足曳の山もとさくつきすなの月は今もちるらん、　弘章

丹後へまかりける時よめる

あまの橋立わたりて久世の戸の鶴たちもとれす絶、

題しらず　清根

人絶えて清水のなかれの旅を思ふやすらふ海士の浦、　古海

中あれても猶人をうらみ浦の昔の涙にて偉みける

泉岳寺にて

袖のうへにかかるも大空の雲なれはいひつる大石君、

えぞの陣にて帰京

紀成

けふもまた

かへりてを今は迫りぬ雁がねの陸奥にしきこえの里

長橋（まかりけるに紀下の寮

安兄

すてらめ

月さえをいそくの里にかへりてをやくらんくるなり花

別

お故のをまよんのかへりぬく遠く遠くしるひるかのけ

故郷

昌敷

ふるさとの人の後家となりてをのあれまたる迎うをを

旅泊

ゑこえ

みちうなくいそのまわふ月ゆてるもひるもはる森見ゆ

旅泊夢

京橋

よるくらにねはこつるかのさは生西原となのまみ

海路

重陽

かのの山そまのひまはんなかう遠くめをのそれ無ゆ

題しらず

重橋

越えてそこのうをは山なのをを路や郷ゆ見ん

山旅　　幸文

こんはてしなきなかにまるまるたつたつゆるぬ折の郎

往事　　豊

佐ともに吹こをうらうらて一時の夢の盛なりける

述懐依人　　うえ人ら阪

うき世のひとのうらはおもひ世をおのつさ面うらうてうる

夢　　節

月書の春のもとにまるものはつのまちまちまち夢なるお

旅夢　　重既

酔ては二ひや紅花の風々紀を探つるもかふ伊あ

題しら尼　　方忠

松の梢雲とまなんなて嵐の音まあ面ものの尼ら

名所橋　　昌敞

麻生津の島代はのうらう白巌の雪いつとゆらん

山家橋　　澹

嵯峨野の山陰の丸木橋あやふものと人ま音風らん

燈　　秀穂

おのつから新のきやら紅葉あるまう一のてすゆ紅ひうう人今

不中燈　有本

[illegible]　夏香

漁火

讃岐の海塩他七名[illegible]　清秋

晴天鶴

[illegible]　正寿

題[illegible]

[illegible]　玄如

浦鶴帝月

葛城の[illegible]　あさ子

駒

陸奥[illegible]　重見

弓

健男[illegible]

堰木　長春

陸奥の[illegible]

岸　恵雲

[illegible]

王昭君　　よ美人しら尼

かくばかりやはらぎそてて母をあはれ濃の新のうるこ人の

西施　　可寛

志ゝさう化者なるまゝの涙おそれ果人身代ゆゝしはは

うなる　　少雄

名をとゝ人をゝ志ゝいひくゝ椎ひろふ者いかゝ後を弼ん

弥祇　　五元

立聚る人のまゝとの道るれ牧てを弥れんるりけり

社頭柳　　則満

柳聚けてうらゆゝ編笠山弥をおもひ出せるそけう名繕、

人丸の社ゝまうてゝ　　安雄

雲風ゝのゝそゝ絵ゝを打弥の跡ひ言きゝて和ゝ弥、

祇園の茶店の砂り弥花あゝて

載ゝ也ける付所ゝ奇ゝ名繕ゝを

よゝ美ゝ者ゝ行る　　京松

おゝ無ゝなゝゝ人ゝ名ゝ繕ゝの歌ゝ弥花中ゝ行てゝ者、

名ゝゝ名ゝゝる人ゝ弥ゝ弥ゝ弥ゝ山（堀ゝ）ゝ行ゝ

無常　　茶仙

[illegible]わうくとたらて懸の長廊風を伝てひびく

題しらず　童蒙

現をもゆめともわかぬうらぬ[illegible]の[illegible]袖

對鏡悲老　三元

[illegible]の[illegible]をうつすかのこゝろをとうるかてうの老をけるかな

老後　觀山

[illegible]ちをとゝは老のちなつのなかめうら[illegible]ぬる袖

題しらず　弘記

池のあをうたかはの[illegible]のさかゝ[illegible]ゝはるの無[illegible]

新願をはきて[illegible]　斐雄

常宮やと奥[illegible]の[illegible]を[illegible]

題しらず　[illegible]

[illegible]雲[illegible]

山深くいりて何せん世中はおもひ捨てあて出へうけ[illegible]

やたとうの[illegible]の[illegible]今の道[illegible]

足引の山のおくにも入のこくうにのみ[illegible]

誰をうをかてうぬ友と[illegible]

[illegible]雲[illegible]の[illegible]

布ひきは無常もしらぬ世とてかたてにてぬきとるかりがね
小木曽山前るはおり蔭よと世をひかふき唐津の観
是をのりおりこは志くぬ無年にぞ尽きをくのか霊に気寒之色
与中の風いくぬ吹らし海原の沖つかりもとせこゆる志賀波
今日ら浪るぬ鳴ると世ひしうつゝの夢はかれこゝろ身は老の名残
いつまそしかすかにもあふぬ世中は何事も見つりし人の命の
しらぬ那き山の桜花も今宵らんとろのまに音せぬ道へ
父宵く明日までの市に来まする衣服見てはかなひなりお
遥にもおれたる花おちれ社寺のみれを吉はり結

八手鉾の神しとはれ人々和琴よりまくのたちと夢やもまし
味酒の三輪は布女子ことはせいつとむしは杉下てる門
君が代を蝦夷よりわかりの玉章もかりの姫をたのまさりけ
おもふとりは松なれもひらく大和わけても許るまとせ人色

香川肥後守撰

氷室長翁補撰